

弁財天の森づくりについて

中部電力(株)を主体に、(一財)日本菌根菌財団(以下、財団)、掛川市、静岡県中遠農林事務所、の4者で「しずおか未来の森サポーター協定」を締結(2021年10月28日)し、地域の方々のご協力をいただきながらSDGsを意識し、「弁財天の森づくり」を進めて参ります。

この森づくりでは、財団のもつノウハウを生かし、マツクイムシに強いクロマツ林の育成を図ります。植栽するクロマツは、全部で429本で財団が1年掛けて菌根菌を接種感染させ育ててきたものです。植樹祭(11月6日)以後も、森づくりに是非ご協力をお願いいたします。

この森づくりの特長は以下の3点です。

特長① アーバスキュラー菌根菌とショウロ菌の2種類の菌根菌をクロマツに共生させた苗を植え付け、マツノザイセンチュウをブロック

ショウロ菌はその菌糸でマツの根を包み、マツノザイセンチュウが根へ侵入するのを防ぐ(樹体内へのセンチュウ侵入防止効果)とともに、両方の菌根菌は菌糸でセンチュウを絡めて消化してしまう(殺センチュウ効果)ため、マツクイムシ防除が期待できます。

特長② 生物的防除により、マツノマダラカミキリを駆除

マツノザイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリを駆除するため、菌根菌胞子内やその周辺に生息しているパートナー細菌や、菌根菌と相性の良いボーベリア(*Beauveria*)等の糸状菌で駆除します。

- ・パートナー細菌を散布(噴霧器使用)します。
- ・ボーベリア菌を染みこませた不織布テープを木に巻き付け、そこに触れたカミキリをボーベリア菌に感染させることで駆除できます。
- ・パートナー細菌、ボーベリア菌ともに自然界に普通に存在するもので、増殖すれば農薬散布が不要になります。

特長③ ショウロ菌の共生により、ショウロを生産し、地域活性化

以前、掛川市の海岸部で採れていたショウロは今、採れなくなっていますが、高級食材であるショウロが生産されれば、採取・販売により地域活性化にも繋がります。

ショウロ菌は、他地域からの8種類の菌と現地で採取した菌の合計9種類を感染させ、最も掛川に適した種類を選別します。

ショウロ



菌根菌：菌根を作って植物と共生する菌類(カビ)である。菌根菌は土壌から吸収した無機養分や水分を植物に供給することで植物の生長を助け、一方、植物は光合成由来の糖類を菌根菌に供給することで共生の関係を築く。

マツクイムシ：わが国に侵入したマツノザイセンチュウのことで、このセンチュウは地中からマツ根に侵入し樹体内で増殖し枯死させる。また、センチュウはマツノマダラカミキリによって他の樹にも運ばれて被害が広がる。

該当SDGs項目

